講義名	消費文化論					授業形態	
担当教員	秋山 学	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 ５時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	ECN289

主題と概要

■消費を支える「選択」の社会文化的枠組みとそれに関わる課題を考える
消費行動は、選択の連続である。消費が行われる際に、意図的か非意図的かに関わらず、何らかの選択がなされる。消費者行動が私たちにとって魅力に映るのは、消費者自らの好みに応じて自由に消費対象を「選ぶ」ことにあると考えるのが現代の主要な考え方であろう。ただし、「選択の自由」がもたらす利点を消費者が十分に活かしているかと問われると種々の問題が現代社会に存在する。

本授業においては、「選択の自由」の意義や重要性を理解するためにも、「選択」という行為を支える社会文化的基盤を、選択を支える心理学的メカニズムとの関連も踏まえながら、考えていく。また、「選択の自由」を消費者が十分に生かすことを難しくする原因の一つとして、消費者を取り巻く人びと・事業者などが消費者の注意を奪い合うことにある。「アテンション・エコノミー」と呼ばれる消費者の注意を奪い合う現状も、「選択の自由」と関連づけながら、本授業で検討していきたい。

到達目標

a. 消費を支える「選択」の社会文化的枠組みを理解できる
b. アテンション・エコノミーがもたらす影響を社会文化的枠組みからも理解できる
c. 「選択の自由」を消費者が活かせるよう、受講生自らの消費者行動を分析・検討ができる

提出課題

● responからアンケート回答および課題提出
・各授業回では、responから授業に関連したアンケートへの回答および課題提出を求める。
・提出課題は、授業の最後に、授業内容に関連した課題を示す。その回答をresponから提出すること。

● 課題提出の際には，授業に対するコメントや質問等の回答欄も設けるが、提出は必須ではない。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

● 各授業の最後に出題した課題は、次回授業時に解説を行う。
● 前回授業時に提出された質問、当該授業回に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しても、次回授業時に受講生全体に対して返答する。
● 授業内確認テストの正答および解説は、当該の確認テストを実施した授業において行う。

評価の基準

次の2点を総合的に評価する。
● 各回授業への参加（レスポンへの回答）および課題（25%）
● 授業内確認テスト3回（75%）

※注意点
（a）成績評価の対象者は、授業の欠席回数が総授業回数の3分の1未満の受講生のみである（学則第16条に準ずる）。
授業全体で出席回数が一定に満たない場合（全15回の授業において出席が11回未満の場合）、確認テストの得点に関わらず、「放棄」となる。

（b）上記（a）の通り、出席が成績評価の前提となるため，出席に関する不正行為は成績評価に関する不正行為（カンニング・剽窃等）と同義とみなし、出席に関する不正行為を行った受講生および関与した受講生は不正が確認された時点で本授業の成績評価を「放棄」とする。

(c)授業出席の判断は、各回の授業におけるresponへの全ての回答状況（課題提出を含む）を踏まえて行う。授業開始時の出欠確認も当然重視される。

履修にあたっての注意・助言他

● 授業では教科書を使用せず、資料を配布する。配付資料のpdfは授業開始時にキャンパスクロスからダウンロード可能とし、電子媒体での配布も行う

● 必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。

● 公的な大会や行事、忌引きなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席事由に正当性が認められない場合などは除く）。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.選択の科学 ： コロンビア大学ビジネススクール特別講義.	シーナ・アイエンガー	文藝春秋	1030	9784167901554
.子どもとお金.	高橋登・山本登志哉	東京大学出版会	4800	9784130513340
.アテンション・エコノミーのジレンマ 〈関心〉を奪い合う世界に未来はあるか.	山本龍彦	KADOKAWA	2970	9784041118450

その他

● 授業では教科書を使用せず、資料を配布する。配付資料のpdfは授業開始時にキャンパスクロスからダウンロード可能とし、電子媒体での配布も行う

● 必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。

● 公的な大会や行事、忌引きなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席事由に正当性が認められない場合などは除く）。

授業計画

1. オリエンテーション：消費行動と選択・選べるという可能性の力
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

2. 無力感と選択・独自性と選択
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

3. 「消費者」という立場・役割
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

4. 「消費者」という立場・役割②　カスタマーハラスメントから考える
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

5. サービス・マーケティングにおける地域差
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

6. これまでの振り返り①：1回目から5回目まで
予習・復習
・これまでの授業資料やノートを確認し、用語の意味や理論を自らが説明できるようにしておくこと（120分）
・授業内確認テストにおいてできなかった箇所を確認し、該当箇所を理解しておくこと（120分）

7. 選択と文化①－文化心理学における「文化」と選択
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

8. 選択と文化②－注意･推論における文化の影響と選択
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

9. 文化的道具としてのお金①－お金の機能・おこづかい
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）
・参考文献など授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から見つけだし、熟読すること（90分）

10. 文化的道具としてのお金②－おこづかいの使い方と人間関係
予習・復習
・配布資料を確認し、用語や理論を説明できるようにしておくこと（60分）
・授業で扱った心理的概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（90分）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

心理社会学科共通ディプロマ・ポリシー
（1）社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
→目標a.～c.の達成は、消費の社会文化的な特徴を理解することにとって不可欠であるため、各目標の達成はこのディプロマ・ポリシー達成のために貢献している。

（2）統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。
→本授業は、実際に調査研究やフィールドワークを実施するわけではないが、各授業では、消費者の選択に関わる実際に行われた研究やビジネスの実践例についてその方法も含め説明を行う。

心理社会学科 社会・文化コースディプロマ・ポリシー
（1）社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し，さまざまなことがらの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。
→目標a.～c.の達成は、消費の社会文化的な特徴を理解が求められる。そのため、各目標の達成は、このディプロマ・ポリシー達成に貢献できる。

（2）社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。
→ 目標a.～c.の達成によって、受講生自らの消費行動のクセを理解しつつ，自らのクセが選択に関わる社会文化的な背景を持つことを受講生自らが自覚し，より良い消費社会の実現に向けた基礎的な知識や能力の習得に貢献できる。

心理社会学科 心理コースディプロマ・ポリシー
（1）人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。
→ 目標a.～c.の達成は、消費場面における人間の心理や行動にかかる社会文化的な枠組みを科学的に分析し予測することに資する。このため，目標a.～e.の達成はこのディプロマ・ポリシー達成に貢献する。

（2）コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用することができる。
→ 目標a.～c.の達成は、消費者間あるいは，消費者と事業者とのコミュニケーションを含む消費者の心理と行動の理解を深めるためのものである。そのため、これらの目標の達成は、このディプロマ・ポリシーに

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業中に，レスポン(respon) を用いたクイズやアンケートを行い，受講生の好み（選好）の分布，当該の話題に関する認識や理解などをリアルタイムで教員と受講生が共有し，受講生の授業参加を促し，教授内容への関与を高める。

実務経験の有無及び活用

なし

備考

●授業ではresponやキャンパスクロスを用いるため、ウェブにアクセスできる端末が必要となる。
●LMS（学習支援システム）など、授業運営方法について、授業開始後に変更を行う可能性があるので、Ryuka Portalからの連絡を忘れずに確認しておくこと。